

甲賀市貴生川駅前の公民連携による市有地整備事業  
「キラッタ・プロジェクト」マスタープラン  
(案)

令和8年(2026年)3月

甲賀市

表紙裏面

# 「（仮称）メディアきらった」が目指すエリアの未来像

教育の関心の高いファミリー層から選ばれるまち  
自分磨きに関心の高い若い人材から選ばれるまち

# 事業対象地・計画範囲について

本計画は、「貴生川駅周辺整備基本構想」の方針に沿って、エリアのポテンシャルや地域資源を生かした事業が実施されることを想定しています。また、南口エリアは、交流拠点ゾーンとして、市所有地を有効活用しエリアの価値創出を図るために、民間事業者と連携する公民連携事業地区として設定しています。

貴生川駅周辺エリアは、甲賀市の玄関口として、機能を集約し、暮らしの質と魅力を高める地域拠点です。本プロジェクトは、暮らしの核となるコア機能を「情報の専門職・司書のいる図書館」とし、ロータリーや駐車場、杣川河川敷まで繋がる道路など公共空間と一体化したデザイン方針を示し、周辺エリアに波及する事業を目指します。



# ベッドタウンから、新たな文化と学習が生まれるまちへ 貴生川エリアのポテンシャル

## 3路線の結節点

貴生川駅は、JR草津線、近江鉄道、信楽高原鐵道の3路線が結節する交通の要衝であり、甲賀市における「玄関口」としての極めて高いポテンシャルを有しています。かつて東海道の宿場町としての歴史的背景を持ち、現在も市内各地からの人口移動を受け止める「都市の中心」としての求心力が高まっています。

## 教育ニーズの集積

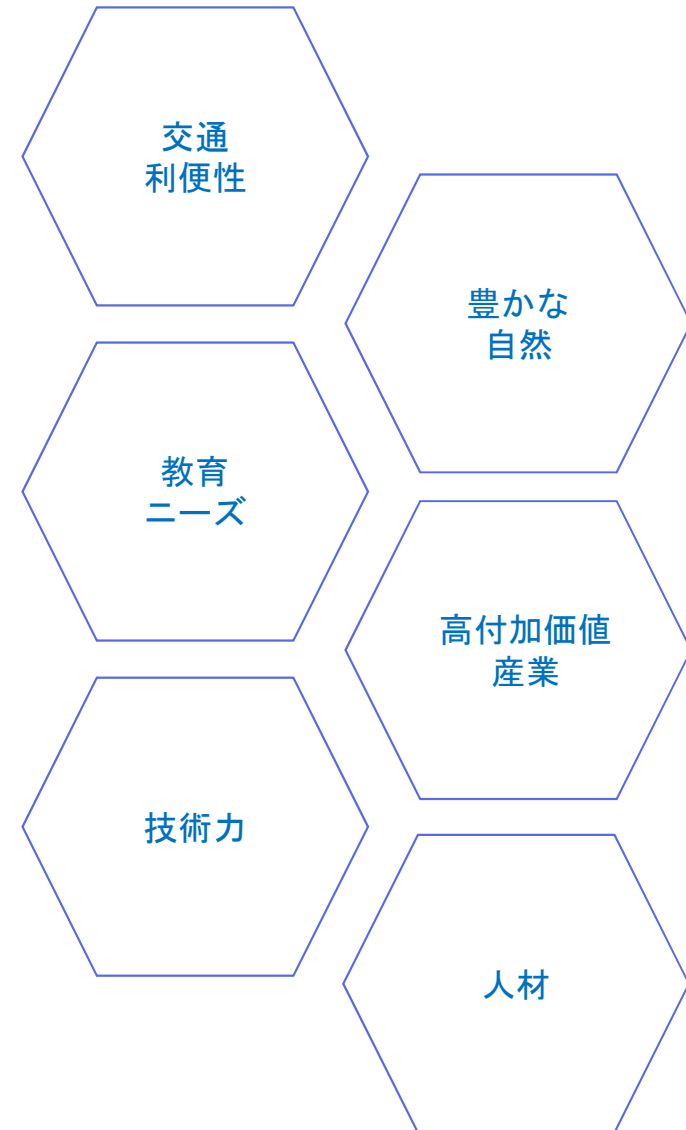
貴生川駅周辺には、宅地開発により多くのファミリー層が居住しており、小学校や学習塾が密集しています。貴生川小学校とこども園のほか、駅の北口には、8個の学習塾が存在するなど、保育・教育施設が集まっており、教育に対する潜在的な需要があると想定されます。

## 手の届く豊かな自然

徒歩5分の距離にある杣川の豊かな生態系は、生活に密接する憩いの空間です。公園や河川敷を歩き、走り、スポーツを楽しむことで、脳と体を刺激したり、精神や身体をリセットすることができます。

## 製造品出荷額等が18年連続県内1位

甲賀市は、全国比で見たときに所得水準の高く、技術力を持つ人材が住み、働くまちです。市内には、工業団地が複数位置し、製薬会社など付加価値の高い産業集積や安心できる医療環境を持っており、市全産業の売上高のうち62%が製造業であり、その出荷額は県内1位です。

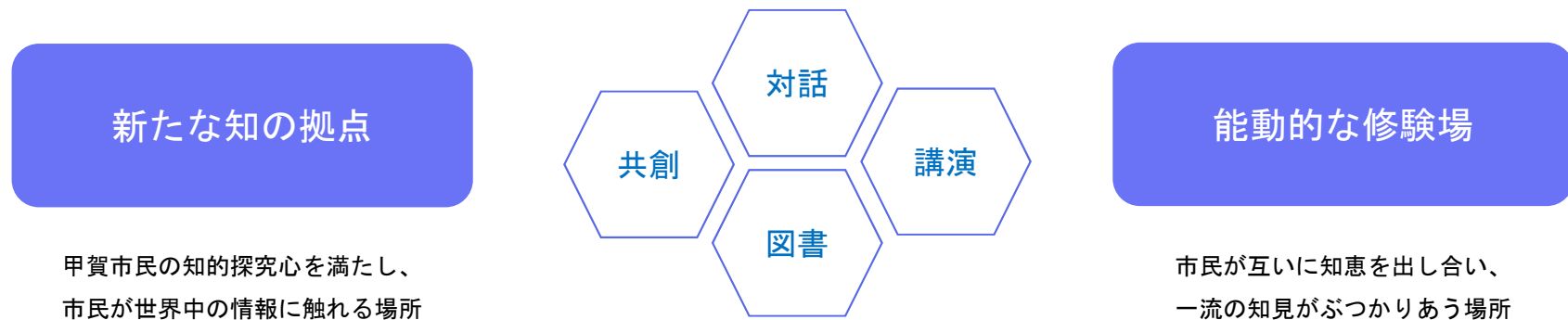


## (仮称) メディアきらったコンセプト

### 忍者の知略を、現代の「学び」へ

変化の激しい現代において、情報のアップデートは終わりのない修行そのものです。かつて甲賀忍者は、各地で情報を集め、技術を磨き、その知略は、現代の製薬産業へと結実させました。まさに、情報を価値へと昇華させるプロフェッショナルです。

「(仮称)メディアきらった」は、そのDNAを継承し、現代に必要な情報を扱うスキル（インテリジェンス）を学び、磨き合い、未来の人材と産業の種を育てる「共創型ラーニングセンター」として機能します。



### 甲賀市の未来を作り出す装置

私たちは、貴生川駅前に、本があるだけの場所を作るではありません。

「(仮称)メディアきらった」を中心に、情報と人が交錯し、市民一人ひとりが一流に出会い、自らを磨き上げることができる。

そうした「知的探求心」と「情報の集積」が、甲賀市の未来の産業と文化を育てる。それが本プロジェクトの目指す姿です。

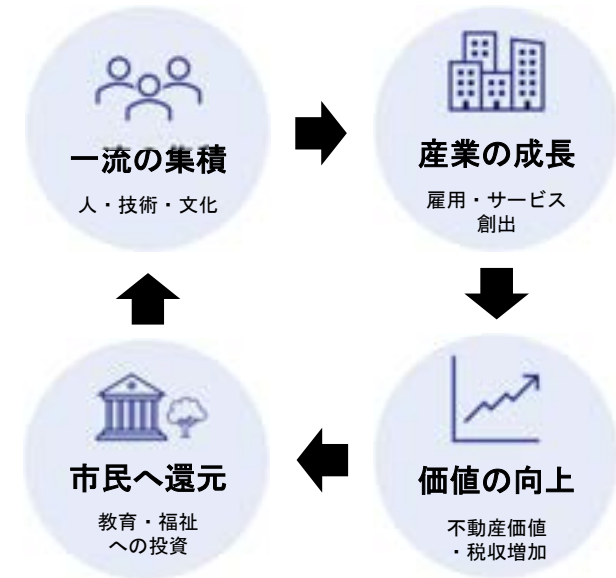
# (仮称) メディアきらった施設の目指す未来

## 甲賀市を成長させる「稼ぐインフラ」への転換

この施設は、市民の教養を高めるだけの文化施設にとどまりません。甲賀市全体の成長を牽引する装置です。

「(仮称)メディアきらった」に一流の人・技術・文化が集まることで、そこでの交流から新たなサービス産業や雇用が生まれます。

地域が賑わい、住みたい・行きたいと思う人が増えることで不動産価値が向上し、固定資産税や住民税の増加を通じて市の財政が潤い、それが再び市民の福祉や教育へ還元される。この好循環を生み出す起点となります。



住まいの拡張としての公共空間

## 暮らしと知が融合するレジデンシャル・エデュケーション (住まいと学びの一体化)

「(仮称)メディアきらった」は、学びのサービスが付帯する賃貸住宅を併設することで、その真価を発揮します。住まいを単なる「箱」ではなく、日々の生活の中に「学び」や「発見」が自然と組み込まれたプラットフォームへと進化させます。

居住者にとって、この施設は24時間使える「自宅の書斎」であり、まちに拡張されたりビングルームです。子どもにとっては好奇心を育む遊び場であり、大人にとってはキャリアを更新し続けるための情報の宝庫となります。

## (仮称) メディアきらったの概要と考え方

### 「本よりも、そこに集まる一人ひとりが主役」

本施設は、図書館が持つ「情報の蓄積・案内機能」をハブとし、多様なジャンルの情報をつなぎ合わせることで、快適で創造的なライフスタイルを生み出します。また、単に知識を得るだけでなく、「学習の取り組み方」をプロの司書と共に考え、なりたい自分になるための挑戦を支援する場所です。

#### 機能01 図書館

プロの司書と共に「学び方」を考え、なりたい自分になるための挑戦を支援。飲食・会話OKの開放的な知の空間。



- ・市内5つの図書館の蔵書70万冊のネットワーク
- ・全国の図書館から資料の取り寄せ
- ・一流のヒト・コトと出会える定期開催イベント
- ・ビジネスや農業、地域の課題解決を支援

#### 機能02 パブリックリビング

目的がなくても「ただ居ること」が許される心地よいサードプレイス。対話、仕事、趣味がシームレスに混じり合う。



- ・高気密高断熱建築による快適な滞在空間
- ・心地よいBGM、香り、落ち着いたデザインの空間
- ・高速Wi-Fi環境、充電コンセント完備の  
コワーキング空間
- ・イベントや会議など用途で区切ることができる  
多目的イベントスペース
- ・色んな演奏、活動ができる本格的な音楽スタジオ

#### 機能03 キラッタSTEAMプレイグラウンド

図書館での探求を「カタチ」にする実験場。専門家の監修プログラムを通じ、子どもから大人まで個性を伸ばす。



- ・デジタル、アナログ両方の機器が備わった  
メイカースペース
- ・食品加工許可の基準を満たした  
シェアキッチンスタジオ
- ・グラフィックデザインや動画編集が可能な高性能  
PCを備えたメディアラボ



本を通じて、作家やアーティスト、読者が交流し学びあう定期イベント  
(c) 岩手日報



本とコーヒー、そして語らい。まちの「リビング」であり、住民の「書齋」となるメディア・カフェスペース  
(c) TSUTAYA BOOKSTORE MARUNOUCH



多様なメディアコンテンツをキュレーションし紹介する図書館  
韓国議政府市音楽図書館 (c) ジョン・ミング



子ども向けのメイカースペース「Maakplaats 021」(c) 伊東 けいこ

# エデュケーション・賃貸住宅の概要と考え方

## 「この街全てが、住民の書斎であり、リビングです」

「（仮称）メディアきらった」は、学びの機能が付帯する新しい賃貸住宅のあり方を提案します。

家族の教育・学習・趣味に必要な空間をすべて家の中に抱え込む必要はありません。貴生川の「エデュケーション・賃貸住宅」は、共創型ラーニングセンターに付随する各種機能を24時間、自分のリビングのように使える新しいローカルサービスアパートメントです。

貴生川に住むことは、街全体のプレミアム会員になることと同義です。

## プレミアムアメニティ

共創型ラーニングセンターは、贅沢な書斎となり、公園と広場は、お庭となります。

子どもにはラーニングプレイス、親にはワーキングプレイス、学習意欲の高い住民同士が作る「知と学」のコミュニティーなど、「職住学共」近接のネオ・ローカル・ライフスタイルが実現できます。

## 超・高性能住宅

住宅は、高い基準の断熱性能により、冷暖房効率を最大化します。夏は涼しく、冬は暖かく暮らしながらも、電気代は大幅に削減することができます。

このような高性能とサービスを提供することにより、駐車場収益やゲストルーム稼働益など持続可能なNOI（純収益）を確保することができます。

### 24時間アクセスの特権

#### 集中部屋

仕事に没頭し、勉強に集中できる個室

#### ウェルネス施設

ジム、サウナ、瞑想スペースを完備

#### ゲストルーム

親戚の宿泊可能、お試し移住体験部屋

#### 専用駐車場

地方生活に必要な駐車場を確実に確保

### 学習支援プログラム

#### RA(居住サポーター)制度

専門スキルを持つ入居者が対象。家賃減免インセンティブを提供。子どもたちへのメンター活動、ワークショップ開催などコミュニティ運営を担う

#### STEAM教育

「（仮称）メディアきらった」の夜間利用の他、高額なクリエイティブソフト・機材を自由に利用可能

# エデュケーショナル・賃貸住宅の概要と考え方

## ライフステージに沿って拡張する住宅

「エデュケーショナル・賃貸住宅」は、幼児期から大人まで、一貫して「成長」と「拡張（Extension）」を軸にデザインします。ライフステージによって変化する学びのタイプについて、生涯学習・リカレント教育の視点を入れ、子どもの教育の他、親自身もアップデートし続ける「共育」の場を創ります。

## エリアに面的に広がる住宅地

- ① 住宅の中に抑えきれない、エリア内で面的に展開するアメニティー機能
- ② 第1期PoCサービスアパートメントの成功により第2期住宅まで段階的開発
- ③ 中長期的に、ローカル・サービスアパートメントがエリア全体への拡大

※ PoCとは：Proof of Conceptの略で、概念実証を意味する。

ライフステージ		提供できる価値	共創型ラーニングセンターとの連携機能
幼児期	感性	世界への好奇心と発見 原体験から生まれる発想力	図書館・広場・自然
小学生	探求	「好き」への没頭と試行錯誤 ものづくりの面白さから生れる 創作力と集中力	STEAMラボ・工作 実験・アート
中・高 ・大学生	学習 個性	学習・受験への道 楽器・技術・アートなど個性の 発見部活など交友関係	静粛・集中できる24時間自習室 防音スタジオ・メディア室
親・成人	教育 更新	子育てとキャリアの共存 子どもの学習と自分の学び直し 大人同士の知と文化の交流	集中ワークスペース・趣味部屋 メンターリング・レクチャー

# 事業構想要素

## 事業の推進方法

本事業計画は、甲賀市の所有する土地の上に、民間（PPPエージェント）が施設を整備し、公共施設及び民間事業として運営管理していく、公民連携事業として推進します。これによって、行政は、質の良い公共施設を経済合理性を持ちながら実現し、民間は市場に向き合って自社の利益を追求しながら、市民の豊かな暮らしに貢献します。

## PPPエージェントの役割

PPP（Public-Private Partnership）エージェントとは、行政の代理人として市との連携協定に基づき権限を委託され、官と民の間に立ってプロジェクトを一貫して推進する民間事業者です。

従来の指定管理者や受託業者とは異なり、市と対等な立場で主体的に判断を行い、自ら資金調達を行い、リスクを負って市場と向き合う「経営」を行う点に最大の特徴があります。

行政のパートナーかつ独立した民間企業として、以下の4つの役割を全うします。

- ① 持続可能な事業継続のために、適正な利益を確保する
- ② 市民の財産を活用し、公共資産の価値を最大化する
- ③ 本拠点の成功を呼び水とし、周辺エリア全体の不動産価値を増大させる
- ④ 市民に愛され、誇りとなる事業へと育て上げる

## 事業費・資金調達手法

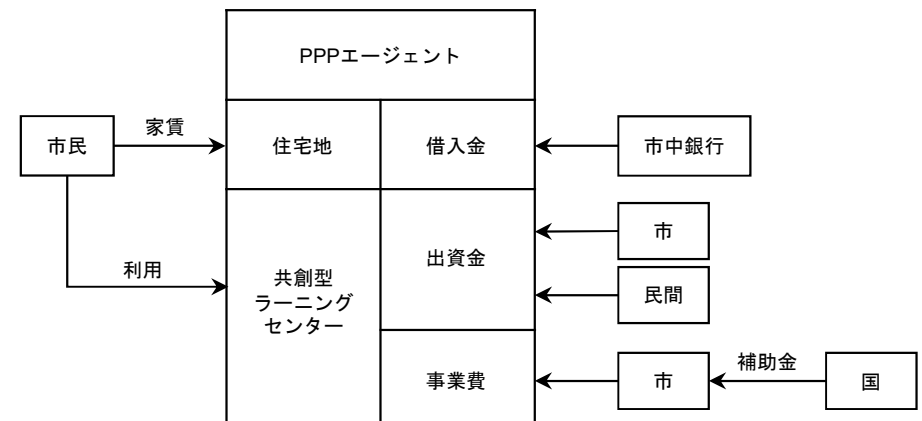
事業費は、総額で約14億円程度を見込んでおり、そのうち共創型ラーニングセンター部分と住宅（商業）部分は、それぞれ7億円ずつ想定しています。

共創型ラーニングセンター部分は、甲賀市の公共事業として整備することとします。整備及び運営予算についても甲賀市が負担することで、関係各所と調整を図ります。

住宅部分は、PPPエージェントが主体となり、施設所有会社として、整備・運営します。甲賀市と政府系金融機関が優先出資することを想定しています。

資金調達について、共創型ラーニングセンター部分は、国の補助金を活用し、民間事業である住宅部分は、市中金融機関や政策系金融機関から借入金として調達すると想定しています。ただし、今後の調整によって変動する可能性があります。

## ストラクチャー（案）



# 事業構想要素

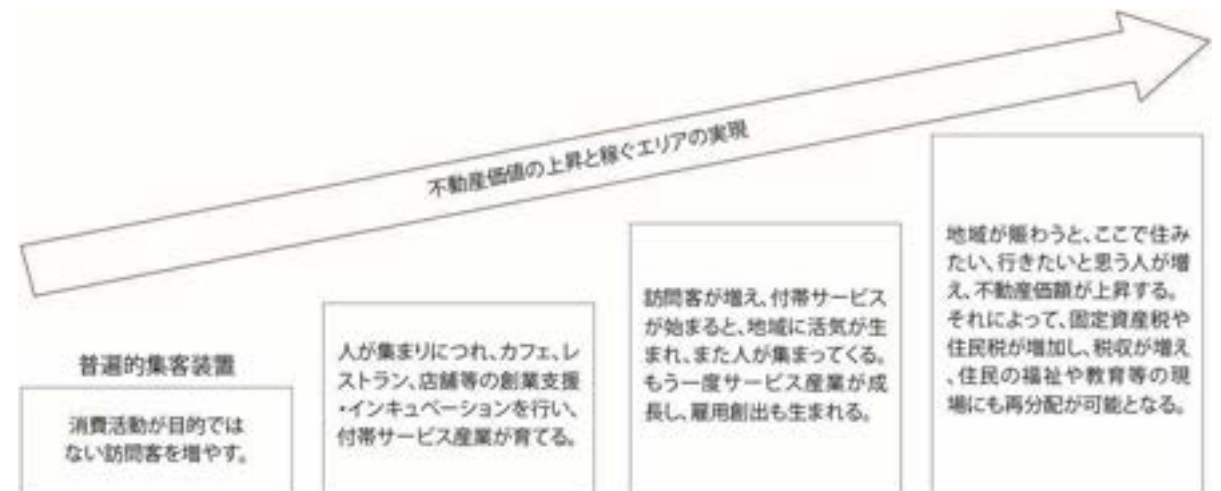
## PPPエージェントの選定について

本事業は、甲賀市で初めてチャレンジする公民連携事業として、確実な収益性を伴う事業を目指します。そのためには、民間の経営力を最大限に活用しつつ、事業のリスクはなるべく抑える事業ストラクチャーの構築が必要です。PPPエージェント会社の選定方法は2つ想定しています。

- ① 公募型プロポーザル方式：市の要望に沿って、民間事業者が自ら手を挙げ事業提案をし、優先交渉権者を決定する。優先交渉権者は、甲賀市との協議の上、事業実施にかかる基本協定を締結する。
- ② 第3セクター方式：市とエージェントとなる民間事業者が50%ずつ出資し、会社を設立し、事業を行う。ただし、事業運営において、市の出資は公共施設部分にとどまり、不動産経営は、民間経営になることを徹底する。

## 公民連携による稼ぐインフラの実現とエリア価値の上昇

このような公民連携手法により公共施設と民間収益施設を開発することによって、長期的にはエリア全体の不動産価値の上昇と、税収増の増加による住民の福祉・教育への再分配が可能となります。



## PPPエージェントに求められる力量と覚悟

本プロジェクトは、単なる施設整備にとどまらず、「住宅設計」と「教育・サービス」を高度に連携させる、極めて難易度の高い事業です。そのため、エージェントには、「民間主導・民間経営」でリスクとリターンを民間が負う覚悟が求められます。また、以下の能力が不可欠となります。

- ① 総合的な事業推進力：魅力的なライフスタイルを描く「企画力」、ターゲットに届ける「営業力」、そして持続可能なコミュニティを育む「運営力」
- ② 教育への深い知見：「住まい」を「学びの場」へと昇華させるための、ソフト面への理解と実装力

公共的な視座を持ちつつも、この第1期事業を絶対に成功させるという不退転の覚悟と、確実に実務を遂行するコミットメントが求められます。

# 基本計画案の考え方

本敷地周辺には、エリアの核となる大きな資源として、貴生川駅があり、近くを袖川が流れています。

エリア全体が一体的にまちの顔となるように、駅前ロータリーを含め、駅の南と北をしっかり動線として繋げます。



# 基本計画案の考え方

本敷地周辺には、エリアの核となる大きな資源として、貴生川駅があり、近くを杉川が流れています。

エリア全体が一体的にまちの顔となるように、駅前ロータリーを含め、駅の南と北をしっかり動線として繋げます。



**「(仮称)メディアきらった」周辺ブロック**

- 駅前広場からの人流を受け止め複合施設、商業群がキラッタ通り添いに配置されます。
- 駐車場を建物裏側に整備し、歩行者動線と分離し、街並み景観の保護を行います。また、自然とキラッタに訪れる動線計画とします。
- エデュケーショナル賃貸住宅や戸建住宅はキラッタ通りから一歩入った場所に整備し、プレミアム・アメニティとの連携を図ります。

**ロータリー周辺ブロック**

- 駅前の顔となる施設が立地し駅の南北を融合します。一般的な公共施設に留まらず、共創型ラーニングセンター、商業も入っている賃貸住宅とアメニティを配置します。
- パーク・ステイ&ライド型の開発として、公共交通と自動車、また人の動線の交差点となる駅前インフラシステムを構築します。

**(仮称)キラッタ通り周辺**

- エリアの軸とし、にぎわい、商業、複合施設、情報交流などの機能を集約します。歩行者動線の誘引、プロムナード演出のためセットバックして広場や緑地からシームレスに施設に繋がるように配置します。
- スパイン(背骨)と横に伸びていく枝部分から構成され、裏側は住宅施設を配置し、まち全体に活気と快適性が広がるようにバランスをとる配置とします。
- 山へのヴィスタ(眺望)と歩行者動線確保のため歩道橋を設置します。

画像@2025 Google Map



# 基本計画案の考え方

## 人の流れ

貴生川駅の南口から杣川の川沿いまでのアプローチを歩行者動線のメイン軸（（仮称）キラッタ通り）とし、賑わいの中心とします。川を渡った先にある小学校まで繋がる人道橋計画も想定に入れ、駅から小学校や周辺の住宅地まで安全な通学・通行ができ、山まで眺望を通すメイン軸とします。

メイン軸から横に広がる道は、昔は栄えていた商店街もあったことから、今後、共創型ラーニングセンターや住宅の開発に伴い、散歩道や住宅動線として再考します。

## 車の流れ

車の動線（青線）は、エリアの外周（国道307号、市道貴生川南幹線、県道貴生川停車場線）に寄せ、エリアの中心部は、歩行者フレンドリーな空間を確保します。

## パブリック駐車場について

駐車場を建物裏側に整備し、歩行者動線と分離し、街並み景観の保護を行います。また、自然と「キラッタ」に訪れる人流動線とします。

景観や線路沿いの騒音が大きい場所などは、駐車場として活用します。

貴生川駅の北口側も、まちの顔になるロータリーには教育関係の商業を配置し、駐車場は裏側に配置します。



内と外が溶け合う、緑と賑わいのテラス。散策の途中でふと立ち寄りたくなる、心地よい街の顔  
(c) LOG ROAD DAIKANYAMA



駅の改札から、まちの広場へ直結。「移動」と「滞在」がシームレスにつながる、新しい駅前の風景  
(c) hocco / blue studio



まちの第一印象を決めるメインストリート沿いには、広場や店舗などの「人が主役の空間」を配置し、無機質になりがちな駐車場は視界に入らない裏手（線路側）に集約  
(c) オガール

# 基本計画案の考え方

## 沿道植栽

沿道植栽は、甲賀市駅前広場にふさわしい景観形成と歩行環境の向上を目的とし、地区計画における骨格的な緑の軸として位置付けます。歩道幅員や道路構造に応じて高木・中木を適切に配置し、連続性のある並木景観を形成することで、駅前空間の統一感と象徴性を高めるとともに、将来的な維持管理にも配慮した植栽計画とします。

## 歩道に面した外構植栽計画

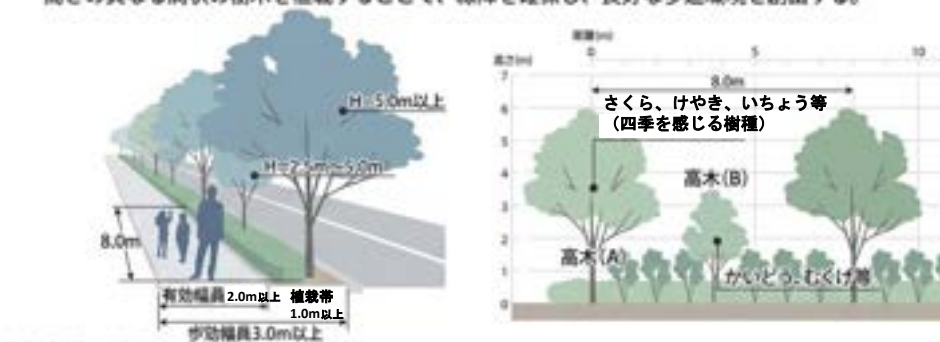
歩道に面した外構植栽は、駅前広場を利用する歩行者の安全性と快適性を確保しつつ、建築物と公共空間を緩やかにつなぐ緑の要素として計画します。中低木や地被類を中心とした構成とし、見通しを妨げない植栽計画とすることで、防犯性や回遊性に配慮します。沿道植栽と連続した緑量を確保し、地区全体で調和のとれた景観形成を図ります。

## 基本的な植栽計画

基本的な植栽計画は、地区計画策定の素案として、将来的な土地利用や建築計画との整合を重視します。生育後の樹高や樹形を考慮し、高木・中木・低木を段階的に配置することで、駅前にはふさわしい開放的かつ安定した緑地空間を形成する。落葉樹と常緑樹を適切に組み合わせ、季節感と年間を通じた景観性の両立を図ります。

### ● 歩道の幅員3.0m以上の路線

高さの異なる層状の樹木を植栽することで、緑障を確保し、良好な歩道環境を創出する。



### ● 歩道の幅員2.5m~3.0mの路線

樹形の広がりを抑えた街路樹を植栽し、歩道の有効幅員2.0m以上の歩行空間を確保する。



# 基本計画案の考え方

## 住宅整備エリアの段階的開発

- ・住宅の整備は、エリア内で段階的に面的に展開できるように計画します。
- ・第1期サービスアパートメントは、共創型ラーニングセンター「(仮称)メディアきらった」と直接アクセスする西側に配置します。第1期住宅は、教育オリエンテッドPoC（実証実験）住宅であり、この住宅事業の成功をもとに、第2期住宅及びエリア内の民間による横展開を見据えた住宅機能のスケールビリティ（拡張性）を確保します。
- ・民間主導の住宅整備やリノベーションに際して、デザインの統一や機能の連携を図るために、地区計画としてガイドラインを設けます。
- ・サービスアパートメントは、パーク・ステイ&ライド型駅前開発において、中長期において良好な教育オリエンテッドのコミュニティ形成に寄与します。
- ・段階開発を経るごとにエリアの住宅価値向上が見込まれます。



(仮称)メディアきらった、第1期サービスアパートメント、第2期サービスアパートメント、人道橋を含めたイメージ



周辺エリアに住宅開発が進んだ時の将来のイメージ

# マスタープラン

パーク・ステイ&ライド型の自動車、人流、公共交通を融合する動線システム  
地域全体の駐車場数は、整備前後で同数を確保

キラッタ通り、複合施設「(仮称)メディアきらった」ブロック、住宅ブロック、駐車場ブロックを明確に配置したブロック・システム

-  : 車の動線
-  : 歩行者の動線
-  : 広場、緑地等を整備すべきエリア
-  : サービスアパートメント、住宅整備エリア
-  : 共創型ラーニングセンター、商業整備エリア
-  : 駐車場整備エリア

# 配置図

パーク・ステイ&ライド型の自動車、人流、公共交通を融合する動線システム  
 地域全体の駐車場数は、整備前と後で同数を確保

※地区計画の設定

駅前口自転車駐車場

メディアきらった(仮称)

貞生川駅

第1期サービスアパートメント(SAⅠ)

駅前広場

キラッタ通り

人流を誘引するピロティ型ノード(結節点)

第2期サービスアパートメント(SAⅡ)

- ・住宅とプレミアム・アメニティである「(仮称)メディアきらった」が快適に連結しつつも、プライバシーに配慮した分棟型配置
- ・構造形式の各種最適化

リテールのアイキャッチ距離60mおきのポケットパーク

建物形状を蛇行させたり、凹凸をつけることで表面積を増やし、キラッタ通りに面した商業の顔出しを確保

※地区計画の設定

歩道橋

⇄ : 車の動線

⇄ : 歩行者の動線

○ : 広場、緑地等を整備すべきエリア

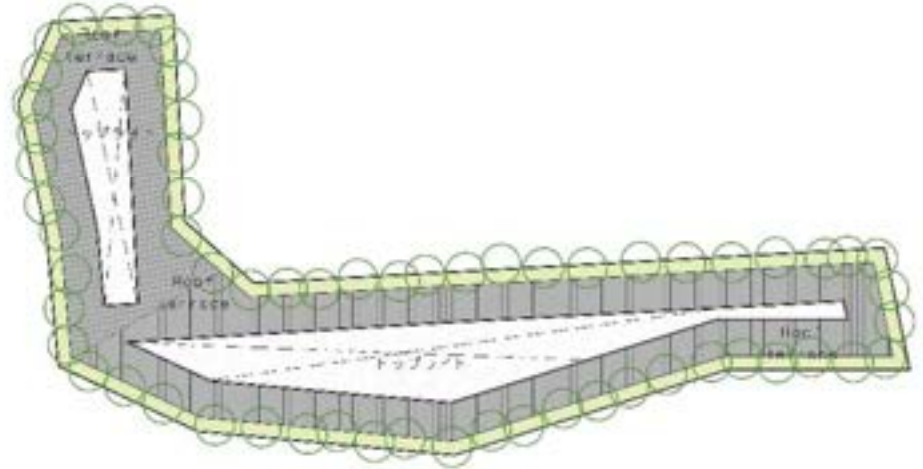
○ : サービスアパートメント、住宅整備エリア

○ : 共創型ラーニングセンター、商業整備エリア

○ : 駐車場整備エリア

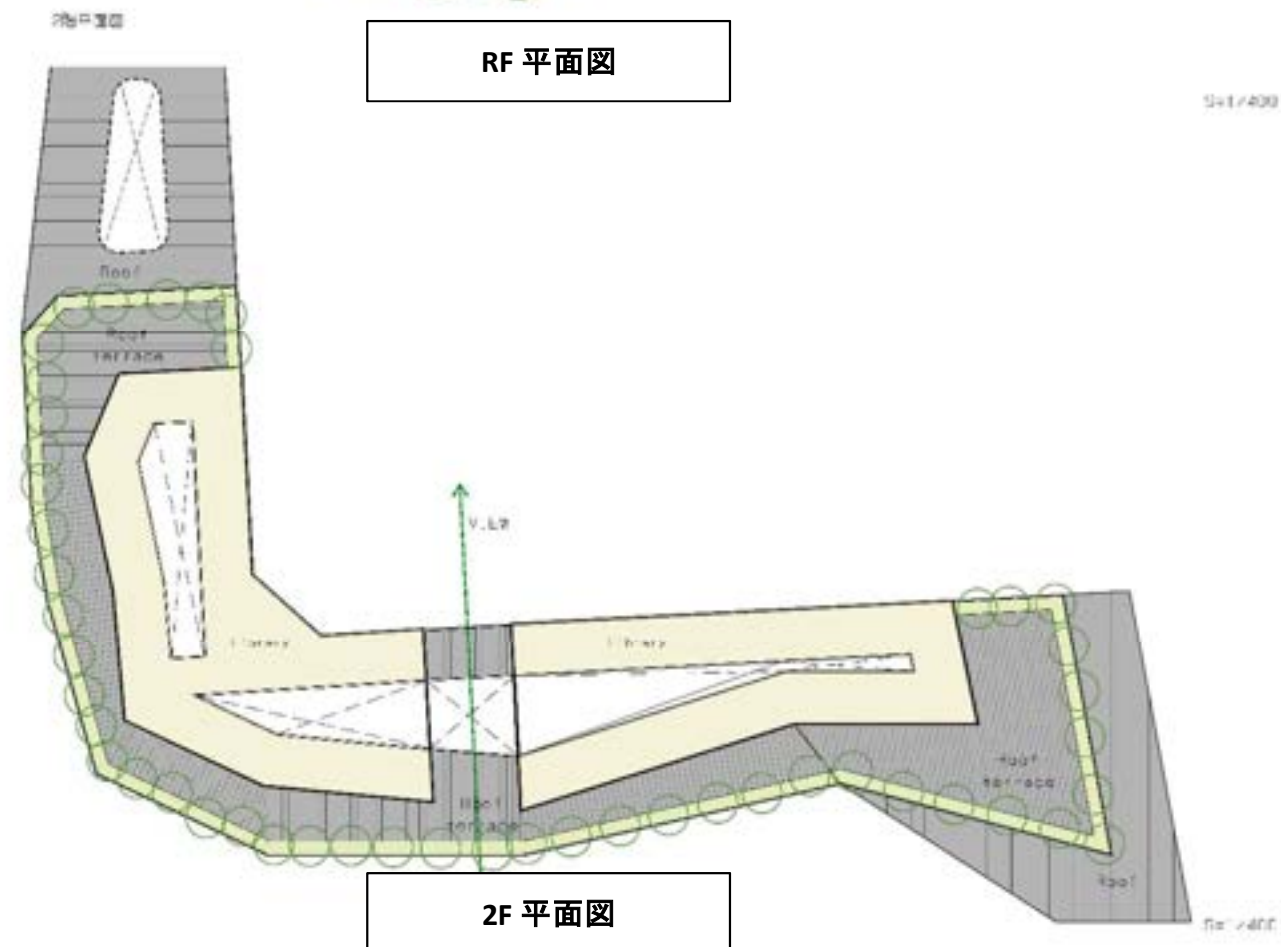


# 「共創型ラーニングセンター」の平面図



RF 平面図

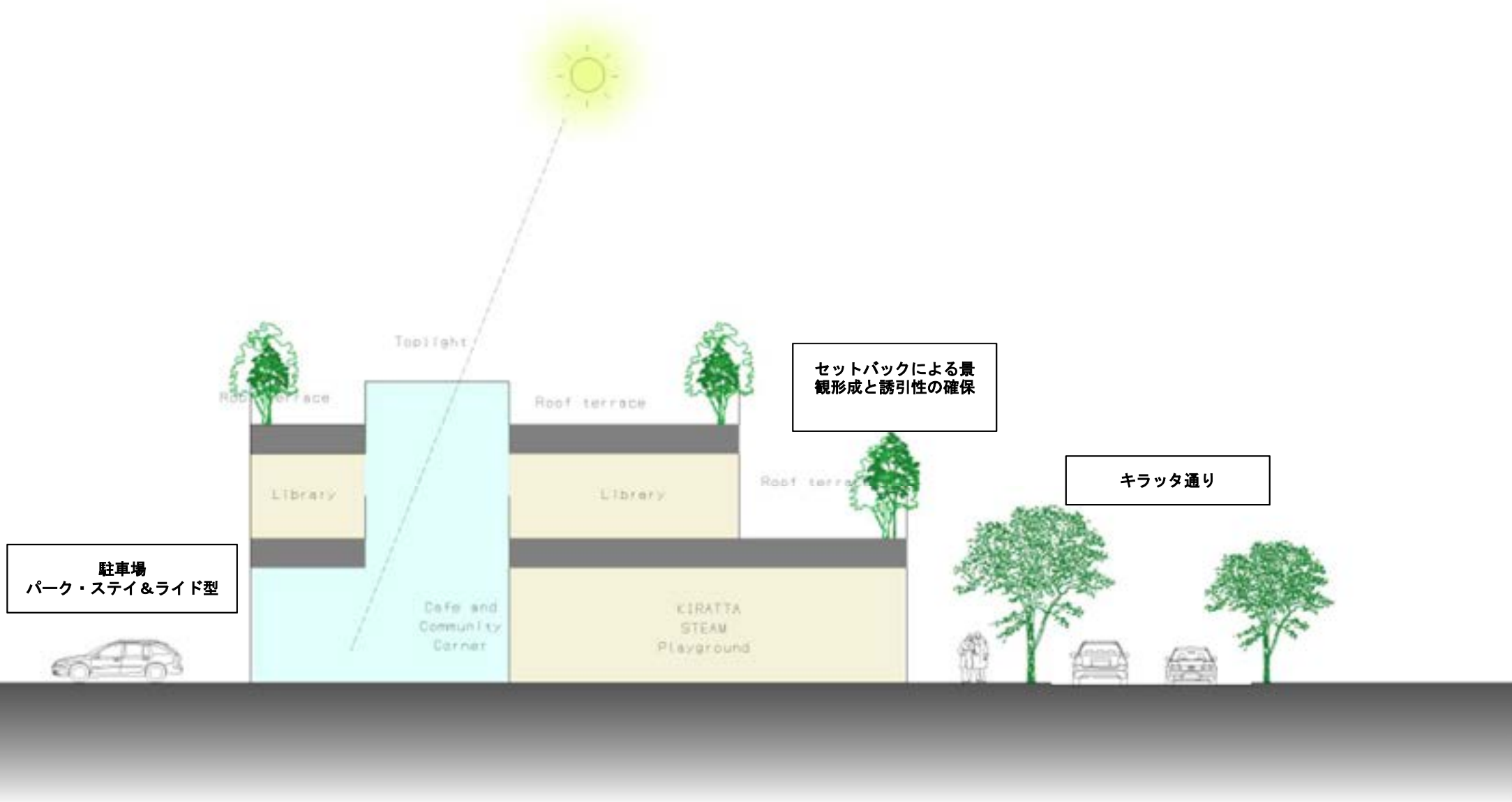
5=1/400



2F 平面図

5=1/400

# 「共創型ラーニングセンター」の断面計画



# 第1期サービスアパートメントの平面図



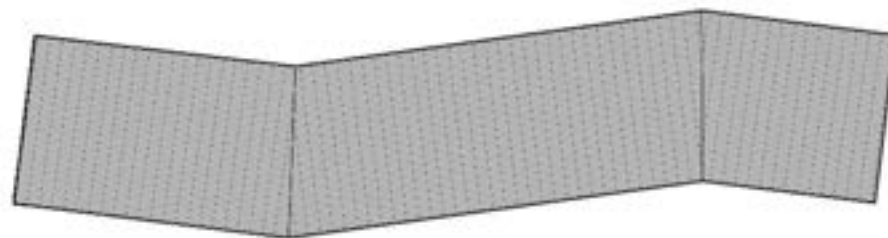
1階平面図



1F 平面図

S=1/400

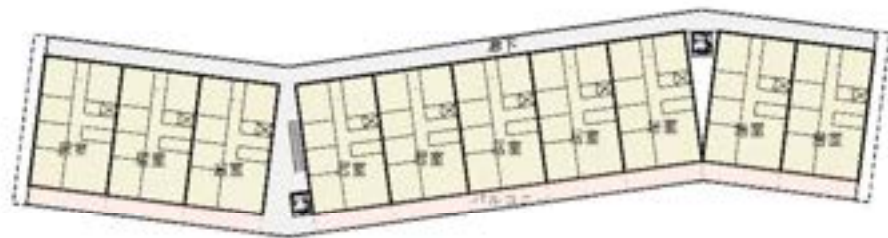
1階平面図



RF 平面図

S=1/400

2階平面図



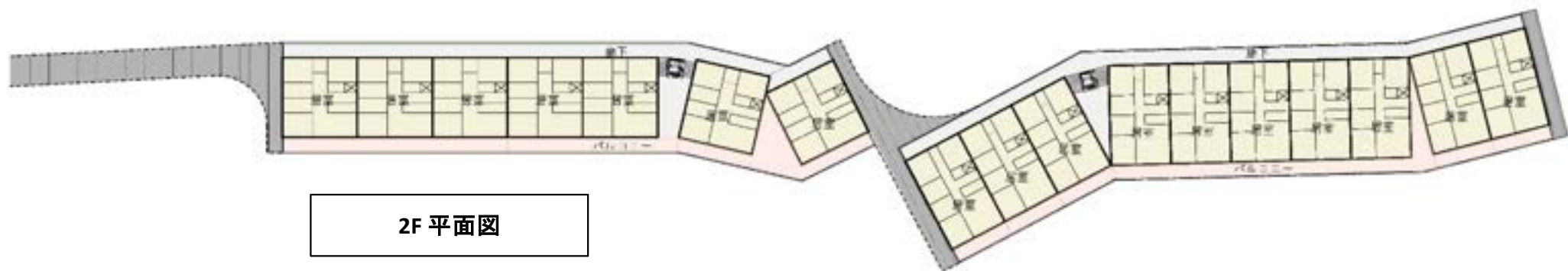
2F 平面図

S=1/400

# 第2期サービスアパートメントの平面図



2階平面図



2F 平面図

S=1/400

1階平面図



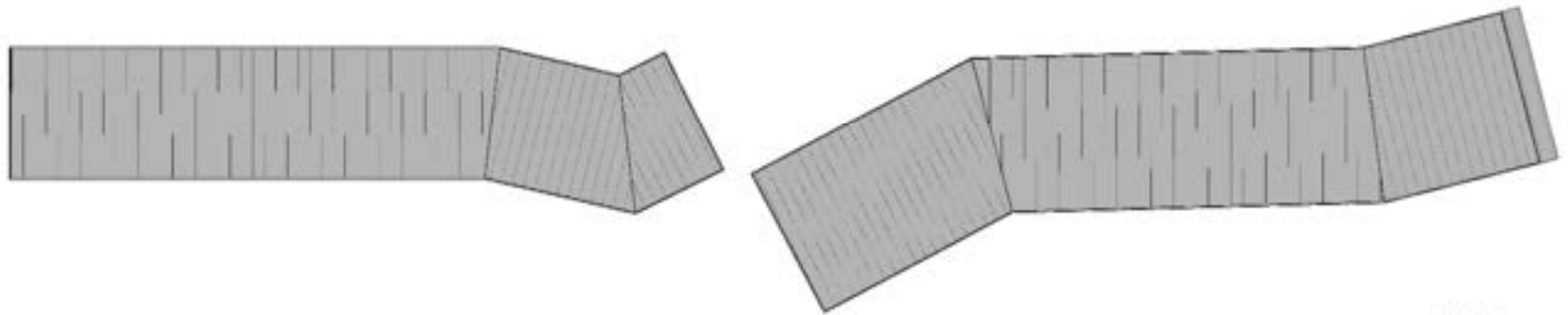
1F 平面図

S=1/400

# 第2期サービスアパートメントの平面図

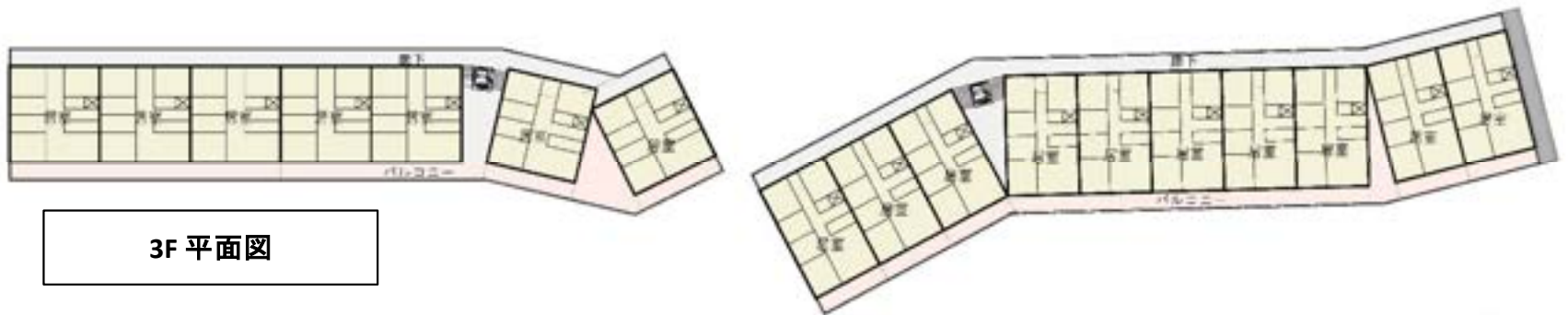


1階平面図



S=1/400

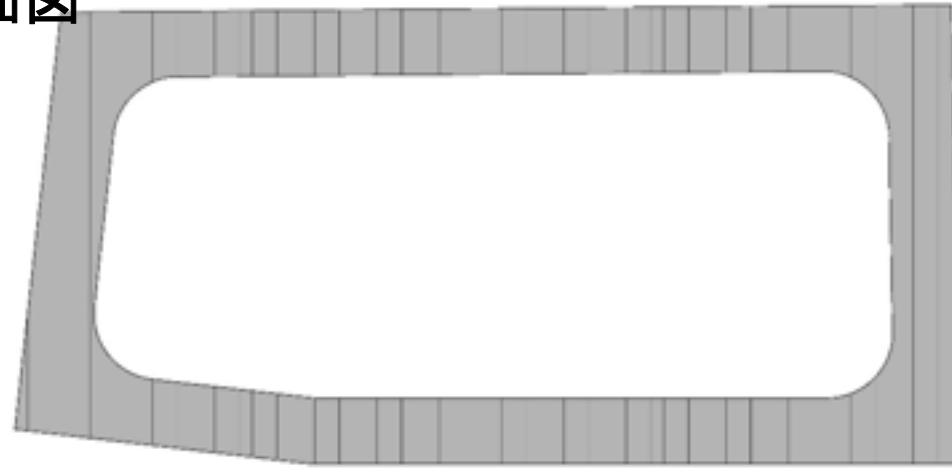
3階平面図



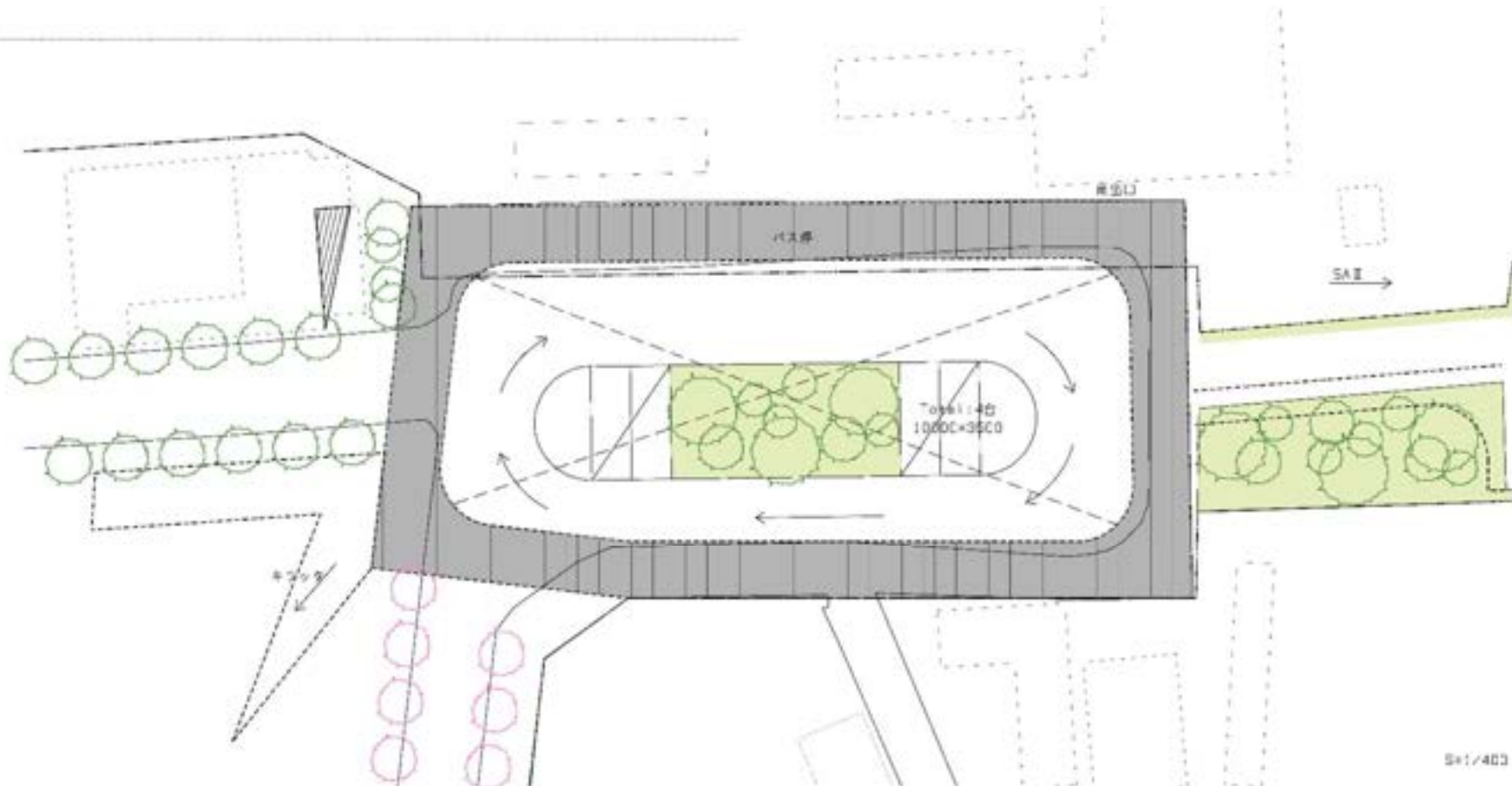
3F 平面図

S=1/400

# 「駅前広場」の平面図



0x1/403



0x1/403

# 参考イメージ



## イメージパース（模型の写真）



模型全景（上方より）

## イメージパース（模型の写真）



模型全景（斜め俯瞰 南側より）

## イメージパース（模型の写真）



模型全景（斜め俯瞰 北東側より）

## イメージパース（模型の写真）



模型全景（斜め俯瞰 北側より）

## イメージパース（模型の写真）



模型部分（人道橋より貴生川駅を望む）

## イメージパース（模型の写真）



模型部分（歩道橋より貴生川駅を望む）

# イメージパース（模型の写真）



駅前広場



(仮称) メディアきらった



第1期サービスアパートメント



第2期サービスアパートメント

建物全景（上方より）

## イメージパース（模型の写真）



駅前広場と（仮称）メディアきらった



第1期サービスアパートメントと  
（仮称）メディアきらったをつなぐ大屋根



山へのヴィスタ（眺望）と河岸を繋ぐ歩道橋

# イメージパース（模型の写真）



第1期サービスアパートメントより  
（仮称）メディアきらったを望む



貴生川駅線路側より  
第2期サービスアパートメントを望む



# 面積表

面積表

用途	SAⅠ(住宅)			キラッタ					SAⅡ(住宅)			合計
	住宅	(内、居室)	小計	Library	Events, learning and coworking	KIRATTA STEAM Playground	Cafe and Community Corner	小計	住宅	(内、居室)	小計	
3階	-	-		-	-	-	-		1,240 <sub>㎡</sub>	1,020 <sub>㎡</sub>	1,240 <sub>㎡</sub>	1,240 <sub>㎡</sub>
2階	730 <sub>㎡</sub>	600 <sub>㎡</sub>	730 <sub>㎡</sub>	660 <sub>㎡</sub>	-	-	-	660 <sub>㎡</sub>	1,240 <sub>㎡</sub>	1,020 <sub>㎡</sub>	1,240 <sub>㎡</sub>	2,630 <sub>㎡</sub>
1階	730 <sub>㎡</sub>	600 <sub>㎡</sub>	730 <sub>㎡</sub>	90 <sub>㎡</sub>	530 <sub>㎡</sub>	180 <sub>㎡</sub>	450 <sub>㎡</sub>	1,250 <sub>㎡</sub>	180 <sub>㎡</sub>	-	180 <sub>㎡</sub>	2,160 <sub>㎡</sub>
計	1,460 <sub>㎡</sub>	1,200 <sub>㎡</sub>	1,460 <sub>㎡</sub>					1,910 <sub>㎡</sub>			2,660 <sub>㎡</sub>	6,030 <sub>㎡</sub>

一般社団法人公民連携事業機構  
U Share株式会社

甲賀市